

注目のアプライアンスが続々入荷!

アメリカン逸品堂



渡辺史敏

Photo: Kyoko Watanabe

アメリカではいまネットワークを活用したおもしろ製品がどんどん誕生している。

そのなかには感動的な驚きの名品もあれば、「なんだこりゃ?」な迷品もある。

ここアメリカン逸品堂では、毎月入荷する品々の中から店主厳選の逸品をご紹介します!

ところがどっこい ウェブやメールは使えず!

日本でも人気が高まっているPDA。アメリカでは主流のPalm、PocketPCのみならず数々の特徴ある製品がリリースされている。今回紹介するFranklin Electronic PublishersのeBookmanも電子ブック対応を特に強化したPDAだ。

その強化特性は外見にも出ている。まず液晶パネルが7.2 x 8.4cmとVisor Platinum/Prismなどよりひと回り以上大きく、文字を判読しやすくなっているのだ。さらに片手で

も「ページめくり」しやすいジョグダイヤルを右側面に装備している。メモリーのサイズとバックライトの有無によって計3種類あるが基本はすべて同じだ。

機能的には同社が展開するセキュアな電子ブックファイルを表示するFranklin Readerと、テキスト、html、電子ブック用pdbファイルを表示できるFranklin Viewerを標準装備。今年中にはマイクロソフトが展開する電子ブック規格「Reader」にも対応予定だ。

また、アメリカでは車で通勤するビジネスパーソンなどをターゲットに、書籍の内容を朗読したテープを販売するオーディオブック市

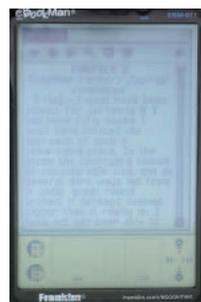
場ができあがっている。eBookmanはオーディオブックを音声データ化し、インターネットでダウンロード販売しているAudible.comとも提携、同社のオーディオブックデータファイルを再生するAudiobook PlayerとMP3対応のMusic Playerも内蔵している。もちろん、通常の手帳、メモ、住所録といったPIM機能もあり、辞書やゲームといったアプリケーションを追加することも可能だ。

さて、このeBookmanを使用するにはなくてはならないのがインターネット。電子ブックコンテンツやアプリケーションはウェブで公開、販売されており、専用マネージャーソフトが入ったパソコンと接続したUSB対応のクレードルを介してインストールされる。さらになんと販売時点のeBookmanにはOSがインストールされておらず、ユーザーは購入後ウェブからOSをダウンロードしてインストールするようになっているのだ。この点も他のPDAとは大きく異なっている。

実際の使い勝手だが、たしかに大画面はいいのだが、大きすぎて日本人の手では片手で扱いにくいのが少し残念。また、インターネットの使用が必須ながら、htmlを読むことはできるもののブラウザや対応メーラーはなく、さらにモデムも発売されていない。コンテンツともどもこれからの充実が待ち遠しい。

電子ブック機能を強化したPDA

eBookman



Franklin Readerでオリジナル電子ブックを表示したところ。ブックマーク、検索なども可能。1本3ドル程度からダウンロード販売されている。古典を中心にした無料テキストもある。

DATA

メーカー：Franklin Electronic Publishers

価格：129ドル95セント～

229ドル95セント

www.franklin.com/ebookman/



Visor PlatinumとeBookmanを比べてみたところ。その大きさがよくわかる。厚さはほぼ同じ。内蔵マイクや音声メモ機能も付いている。

縦型トリニトロンがソニーらしい

eVilla

機能は充実だが、
サイズはかなり大型

誰もが簡単にしかも安価にインターネットを使える“ネットアプライアンス”は昨年春ごろに大きな話題となったが、市場は依然小さなままだ。なかには以前本誌でも紹介した3comのAudreyのようにすでに過去のモノになってしまった製品もある。そんななかソニーがeVillaを新発売した。

ただ、発売までは非常にバツついた。1月のCESで公開されたあと、2度も発売を延期。6月14日にやっと発売されたが、その後もショップでは入荷日未定のまま。直販サイトのSonystyle.comも「6月発売」「予約受付中」の表示が続き、20日すぎになってようやく「25日以前に出荷」となったが、27日には「出荷



専用コンテンツの1つ、ABCNewsによるニュースページを表示したところ。縦型800×1024表示のおかげでかなり見やすい。



ビデオをはじめとしたマルチメディア対応はeVillaの売り。Real Playerが再生ソフトになっている。

DATA

メーカー：Sony Electronics Inc.
価格：499ドル99セント
(月額利用料21ドル95セント)
Jump www.evilla.com

日未定」に戻った。結局、届いたのは7月6日。直前までトラブルがあったのだろうが、ソニーらしいスマートさはまったく感じられなかった。

さて、eVillaの特徴をハードから挙げていくと、まずなんといっても目に付くのは縦型ブラウン管ディスプレイだ。800×1024という表示は、たしかにウェブページを見るのに適しているし、トリニトロンのフラットな画面は目にもやさしく、他のネットアプライアンスより一段上の印象を受ける。ただ、奥行きが約45センチもあるため気軽にキッチンに置けるというサイズではなく、設置場所はかなり限定されそう。プリンターとZipドライブに対応したUSBポートのほかにもメモリスティックロットがあるのはソニーらしいところだ。

インターネットへの接続はイーサネットポートがあるものの現在はサポートされておらず、56Kbpsモデム、それも大手プロバイダーのearthlinkが提供する専用サービスのみへの対応となっている。これは2台目以降のネット端末として導入するにはかなり不便だ。

ソフト面では、OSにBeが開発したアプライアンス用のBelA、ウェブブラウザにOperaを採用している点が目を引く。多少画面の切り替えでもたつきが感じられるものの、



実際の使用では特に不満は感じられなかった。また、制約の多いネットアプライアンスにしては珍しく、Flash、Java、リアルオーディオ/ビデオに対応しているが、ウィンドウズメディアには対応していない。

機能面では夜中に自動的に主要コンテンツにアクセスしてデータを蓄積し、後でオフラインでそれらを見られる“巡回機能”がついていたり、メモリスティックを使ったさまざまな使い方が提案されているが、パソコンユーザーからするとそう目新しいと感じるものはなかった。

後発組だけに基本性能や使い勝手はこれまでのモノよりも向上しているが、これで沈滞するアプライアンス市場が活性化するかといえば、ちょっと苦しいかも、と答えるしかないのである。



ひと足早くハヤリモノをcheck!

今月の早目・早耳

またユニークな携帯アプライアンスがデビューする。このPC-EPhoneはWindows CE3.0とCDMA方式の携帯電話を一体化したものだ。CPUはインテルのStrongARM SA-1110、RAMは32MB、タイプIIのCFカードスロットを搭載、4インチのTFTカラー液晶は256色640×480表示という本格派。通信速度は14.4Kbps～19.2Kbpsで、通常の音声通信はもちろんのこと、IE4.0によるウェブブラウジングやインターネットメールに加えてショートメッセージまでカバーしている。

と、まあ以前本連載で紹介したKyoceraのパーム内蔵携帯電話よりもさらにパワフルで豪華フル装備といった構成になっている。そのせいか102ミリ

という幅が示すように、パッと見では携帯電話とは思えない大きさで、重量も約300gもある。

これでは実用性は?と思ったが、さらに驚かされたのが巨大な“スタイラス”だった。これ、なんと電話のハンドセット機能を内蔵したBluetoothユニットなのだ。実際の会話はこのユニットだけでOKというわけだ。恐ろしく意欲的な製品なだけにどれだけ“使える”のかを早く試してみたいものだ。6月に開催されたPC Expoでは同社重役が日本市場にも興味を示していたが、さて発売は?

予定ではアメリカとカナダの北米市場で、7月中に発売されるとのこと。価格は未公表だが1,000ドル前後と見込まれている。

Bluetoothで電話も使えるWindows CE機

PC-EPhone

Jump www.pc-ephone.com





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp